〔日本書紀七景行〕二十七年十二月、更深入關川上梟帥且被酒、

〔萬葉集十冬相聞〕寄霜

甚毛、夜深勿行、道邊之、湯小竹之於爾、霜降夜烏、

〔運歩色葉集〕夜半定

〔書言字考節用集二時候〕夜半中夜　中宵白文集

〔日本書紀十一仁德〕四十一年○應神二月、譽田天皇崩、○應神中略、大山守皇子每恨先帝廢之非立、而重有是怨、則謀之曰、我殺太子○菟道稚郎子遂發帝位、○中略太子設兵待之、大山守皇子不知其備兵、獨領數百兵士、夜半發而行之、會明詣菟道、

〔日本書紀二十推古〕二十九年二月癸巳、半夜廐戸豐聰耳皇子命薨于斑鳩宮、

〔日本書紀二十天武〕元年六月甲申、是日發途入東國、○中略及夜半到隱郡、焚隱驛家、

〔榮花物語二十五峯の月〕殿の御まへ○藤原道長、中略、みゆる御くだ物たびごとに、よる夜なかわかず奉らせ給、

〔萬葉集四相聞〕大神女郎贈大伴宿禰家持歌一首

狹夜中爾、友喚千鳥、物念跡、和備居時二、鳴乍本名、

〔饅頭屋本節用集之時節〕初夜

〔書言字考節用集二時候〕初夜戌刻、初更之時也、

〔雲圖抄裏書〕御佛名次第

亥一刻打鐘、仰御導師等、初夜御導師、自亥二刻至子二刻、後夜御導師、自子三刻至丑四刻、

〔源氏物語四夕顏〕寺々のそやもみなをこなひはて、いと玄めやかなり、

〔書言字考節用集二時候〕後夜寅刻

〔玉葉和歌集十八雜〕後夜のをこなひし侍らむとて、手あらひにまかりたるに、○中略高辨上人、○略歌